

件名	第4回松崎地区駅前活性化協議会
日時	2018年11月19日(月)19:00～20:30
場所	総合相談センターどれみ
出席者 (敬称略)	協議会委員:谷口、本庄、川崎、澤、岸田、速水、北村、遠藤、藤原 湯梨浜町役場:遠藤室長、嶋田 まちづくり株式会社:川田 (委任状)立木
決定事項 (合意事項)	
次回までの 調整事項	
配布資料	第4回松崎地区駅前活性化協議会レジュメ、松崎地区駅前活性化協議会これまでの取り組みについて他

1. 開会

2. 会長あいさつ

(会長)お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。では活性化協議会を始めます。先回の協議会で急きょ竹灯籠を作ろうという事で上げまして、何とか10月の中旬に盛り上がって竹灯籠プロジェクトが出来たなと思います。ご協力ありがとうございました。特に事務局には竹灯籠の竹を切っていただきまして、それがスタートになりまして、非常に盛り上がったプロジェクトだったと思います。それから第二弾として、10月27日に向けまして花いっぱい運動のプランターづくりで、約50作り、何とか11月5日のゆりりん館のオープンに間に合ったということで、委員さんを中心に作業していただきまして、ありがとうございました。そういう事で今年は5月の軽トラ市、そして竹灯籠、プランターづくり、目に見える化を実施できました。ありがとうございました。それでは今後の在り方等も含めまして、フランクに討議していきたいと思いますので、忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

2. 議事

(1) 9～10月の協議会の取組み報告について

(会長)それでは、早速ですけど、9～10月の協議会の取組状況につきまして、事務局の方からお願いします。

(委員)はい。では、1ページはぐっていただいて、実施された順番に報告していきたいと思います。まず、竹灯籠プロジェクトです。これは先回の協議会の時に急きょ決まったプロジェクトですけど、協議会の方で竹灯籠を作って、祭りの時に灯りをともそうということで、実施になりました。制作活動については、9月17日の祝日月曜日に倉庫、車庫をお借りして、協議会や湯梨浜まちづくり株式会社のメンバー11名が参加して実施されました。竹灯籠を作られたということで写真に載っている通りです。実際の竹道路の設置については、10月13日14日土日にかけて、松崎神社の参道、1区から旭区までの松崎神社、契神社竹灯籠の灯り約200灯、点灯したということです。これは協議会が中心となって、湯梨浜まちづくり会社、神社の合同協議会、区長会などの協力により実施をしたという状況です。まず竹灯籠プロジェクトについては以上です。続きまして、松崎駅前花いっぱい運動です。10月27日土曜日に多世代交流センター前で、実施をしました。協議会の委員さんにお世話になって講師をしていただき、花の苗や土なんかの準備もお世話になりまして、実施をしまし

た。参加者17名で約50個のプランターを作って、11月5日のゆるりん館のオープンに向けて、準備をしていただいたという所です。プランターを設置した状況とか、寄せ植え講座の様子を写真で紹介しています。続きまして11月5日です。交流センターゆるりん館のオープン、旧Aコープ東郷店が交流センターゆるりん館に生まれ変わってオープンいたしました。事業経過とかゆるりん館の中身についてそれからゆるりん館を活用してくださいというようなチラシを付けております。簡単ですが以上ですが、何か補足がありますでしょうか。

(事務局)ゆるりん館の方は、皆様のご協力もありまして、11月5日に無事オープンいたしました。活性化協議会でプランターを作っていたいて、非常に賑やかに盛大にオープンすることが出来ました。ありがとうございました。ゆるりん館もオープン当初、初日が250名くらいで、かなりたくさんの方に来ていただいて、現在は落ち着いて、一日100名くらいの方にご利用いただいております。まだ、地元の方に周知が足りないなと思ってますし、これから中身も、商品等も、みなさんにご意見を聞きながら、要望に沿ったようなものに改善しないといけないなと思っています。協議会の方の意見も聞きながら、やっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

(会長)はい、ありがとうございます。以上3件ですね、竹灯籠プロジェクト、花いっぱい運動、ゆるりん館オープン、3件ですけど、1点竹灯籠の関係のプロジェクトで補足的にですけど、予算面はまちづくり会社の方も役をして支援をいただきました。総額どの位でした？総額今回？竹灯籠。数万？

(事務局)数万もかかってないです。

(会長)かかってない？ちょっとですね。

(事務局)ちょっとだけ。

(会長)竹灯籠自体は、今回事務局の方に準備していただいた関係で、サービスということで。

(事務局)竹はただで、あとは、竹灯籠の講師さんの指導料で5,000円ちょっと、かなり安くしていただいて・・・。

(会長)あー、そうか、穴あけなんかを。

(委員)ちょっと勘違いされているので、そういう文化イベントをしないといけないので、材料費とすると出ない、子どもさんを対象にして教室をやるとか、

(会長)あー、なるほど。

(委員)それ一回持っていきますから、それを一回読んでもらった方がいいと思います。

(会長)そうすると竹灯籠づくりなんか募集したような教室が燕趙園の中なんかにありますけど、あそこで一回、今回は5,000円だったですけど、何回かに分けてやるということになるとそれは支援は？

(委員)費用が今の話で出てないので、10万出るっていう事は出ないので、総額のいくらって、一応審査があるんで。

(会長)ハード面は無しですか？ハード面も？

(委員)一応規約が頭に全部入っていないんですが、はまれば出ます。

(会長)今後の展開としては、竹灯籠作業なんかをする場合、例えば教室がありまして、そこに行って参加費なんかを支援を貰うという事も可能性としてはあるんですか。

(委員)規約にはまれば。一応営利目的ではないとかいろいろあるので。そこを読んでいただいて。それをまず、していただいたらいいかと思います。

(会長)分かりました。

(委員)持ってきますので。協議会の方に？事務局の方に。多分12月の中旬には出ますので。

(会長)通る形のアドバイスを。

(委員)例えばコンサートをやるとか、今の話だとお金がかかってないので・・・。

(会長)今回はかからない形でしたんですが、今後は、例えば教室を開催するとか竹灯籠の製作教室を開

催するとか、そういう形になると費用がかかってくるんですよ。

(委員)場所代ですとかね、で、それを計画出してもらって、挙げていただければ僕の方で推薦しますの
で。そもそものそれがあるかどうかひとつチェックしてもらわないと。なので、今の時点で良い
とか悪いとかは言えないので。

(会長)基本的な方向としては、今回はボランティアでメンバーが主体でやりましたけど、再度になりま
すけど、地域の人に参加してもらう形で、その辺の負担をお願い出来たらなと、そんなところで相
談させてもらいますので、よろしくお願いします。

(委員)はい。

(会長)2点目の花いっぱい運動につきましては、最終的には10月27日に設置して、11月の中旬ですか、
中旬に、今まではどれみとかまちづくり会社の管理に約50のプランターはしていただいていたし
たけど、11月中旬以降は個人管理、製作者の方で持ち帰っていただきまして、個人管理にシフトし
ます、という事です。花いっぱい運動はそういう状況です。費用面については、数万をまちづくり
会社の方に負担してもらったと、いう事です。総額3万くらい？

(委員)そうですね、はい。

(会長)3万くらい。ゆるりん館の関係につきましては、もう少しPR活動をしていくという風に話が進ん
でいます。なにか皆さんの方でこの辺について、1番、2番、3番まとめてご意見ありましたら・・・。

(委員)ゆるりん館の命名につきましては、公表はされてないですね。

(事務局)公表はしてますね、町報だったかな？

(事務局)町報で名前が決まりましたと。

(委員)いやいやそういう意味ではなしに、誰が名付け親かという。

(事務局)誰が名付け親かというのは、本人さんのご希望により公表しないという事で。

(委員)辞退されたのですね。

(会長)町報の11月号で、名前については

(事務局)はい。

(委員)それは見ただけど、誰が名付けたかなって。

(事務局)そこは本人さんに聞いたところ、公表してほしくないという事だったので。

(委員)地域はどこですか？東郷の人？

(事務局)地域は町内です。

(委員)東郷地域の方か、青谷地域の方か、泊の方か。あれは東郷地域に絞ってたんかね？

(会長)いや、全域。

(事務局)東郷地域の方です。ゆるりん館。

(委員)東郷地域？まあ、希望されないという事だからどうしようもないですがね。

(事務局)ひとついいですか。協議会で足湯とか十分に検討いただいて、うちも要望しているところで、
ようやく温泉組合の方とほぼ話がつきまして、ほんとはこの施設に間に合わせたかったところですが、
いろいろ調整が長引いたところがありまして、ようやく話がついて、いつになるかはまた再度
これから調整していかなければいけないんですけど、これから設計を組んで年度内には完成という
事で進めたいと思っています。また、ゆるりん館の軒下っていうのでしょうか、あの辺という事で、
また調整なり、詰めさせていただけたらなと。

(事務局)場所は、申請の都合で変えれないという事だったので、あとは協議会のみなさんの方で、せっ
かく作るんだったらこういう造りの方が使いやすいとか、いうのがあれば早めにご意見をいただ
ければ、設計に反映しやすいんじゃないかと思いますけど。設計これからですよ。

(事務局)ひとつイメージ的に思っているのが、檜・・・。

(会長)今年度中でしょ？

(事務局)ええ、今年度中。これから設計なりなんなり調整が入るので、すぐにはならないですけど、今年度中にはという事で進めたいと思います。イメージ的には檜か何かを使って、そういった足湯かな、という風には思っているところです。

(事務局)屋根とか囲いはつかないんですよね。

(事務局)つかない。

(事務局)あくまでも、庇を利用して、桶というかそういったものを作るイメージですか。何人くらい入れる感じですか。

(事務局)スパンがあるんですよ、その一角、3メートル程度の一角のスペースで、だいたい合い向かいで10～12人、要するに片側でいったら5～6人の合い向かい程度なのかなと。

(会長)あその建物に平行ですか。

(事務局)平行です。平行というかあの軒下に。

(会長)建物に垂直ではなくて。

(事務局)そうです。

(事務局)じゃあ道路に平行ですか。

(事務局)道路っていうか、軒下沿いに…。

(委員)道路側は雨が降ったら入りそう。

(事務局)そうですね、吹き込んだりしそうな感じですね。

(委員)道路側っていうか…。

(事務局)そうです、そこしかないんで。

(会長)4マスあるどっかに置くっていう話です？あそこマスが4つある。

(事務局)4マスあって、一番左の所には東郷市の倉庫があるんで、左から2マス目ですか？玄関に近い2マスには、どうしても自転車とか老人会とかが置かれるんで、その左側だと思うんですけどね。でもなんか、やはり建物に平行だと、道路側の方はちょっと天気の良い時に吹き込んだり…。

(事務局)スペース的なものがあるんでね。位置的にはやっぱり長細いようなイメージになってしまうんで。縦にするとまた逆にね…。

(事務局)コの字みたいなのもいけないでしょうね。

(事務局)シンプルにして催し物なんかする時に、そこに板を置いたら、販売スペースというか展示スペースに出来る様なイメージを持っていればいいのかと。

(会長)あと2つは？

(事務局)なんかイベントするときに足湯の上に板を置いたら、一つの台になったりとかああいった使い方も出来るのかなと。なんか販売するとか展示するとか。

(事務局)温度的には温泉卵が出来る様な温度じゃないですよ。

(事務局)と思います。大分出てるやつを引っ張るんで…。

(会長)温度が低いわけですか？

(事務局)だと、思います。

(会長)足湯にちょうどいい？

(事務局)その辺はこれからの調整なんでしょうけど。

(会長)特には住民の方に意見を聞くという思いは？ない？

(事務局)まあ、言ってみれば関係者で、元の協議会の、要望の中で、十分に検討されてきた話なので、そういった部分で、あとは実際にはまちづくり会社が運営されてますので、その辺で話をさせていただけたらと。

(事務局)そうですね、足湯の部会長さんを交えてちょっとまた話を。

(事務局)そうですね。

(会長)よろしくお願ひします。それでは、3件についてよろしいでしょうか、みなさんの方でご意見等ありませんでしょうか、特に作業、竹灯籠については引続きやってほしいという意見は何人かあったものですから、この辺については、今後また、検討してみたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

(2) 駅横施設の活用について

(会長)それでは、2番目の駅横施設の活用についてのお話を事務局の方からご説明します。

(事務局)資料は特にはつけてないんですけど、今までいろいろと協議をしていただいて、写真の張り替えですとか、どれみの方に案内するような表示ですとか、観光パンフレットを置く方がいいじゃないとか、いろいろ協議をいただいているんですけど、後ろのホワイトボードに貼ってますが、観光パンフレットをどれみの方に置いてますのでどうぞみたいな貼り紙をドアの所にしといたらどうかという所で、作ってみました。写真の貼り換えなんかについては、なかなか毎回誰がするのかという話があると思いますので、難しいかなという気がしています、まちづくり会社の方もなかなか人手が足りないという所もありまして、観光パンフレットを置いたり、写真を貼り換えたりが難しいかなという所で、どれみの方を案内する、トイレもどれみの方にありますよってというようなことを案内するような貼り紙をさせていただけたらなと思って、作ってみました。ご協議いただいた内容からいくと本当に簡単なものになってしまったんですけど、みなさんのご意見を伺えればと思います。以上です。

(会長)はい、ありがとうございます。どれみへの案内という話がありましたが、特に当初の意見交換の中では、まちづくり会社の方に期待する意見が多かったですけど、現実的には難しいですか？

(事務局)そうですね。どれみの方も看護師さんとスタッフが常駐してるんですけど、毎日なかなかそこまで手が回らんじゃないかという事があって、もうちょっと具体的にこういう事っていうのが決まって、それが実際に出来そうな事であれば、また見当も出来ると思うんですけど。

(会長)ひとつは写真を貼って、毎日じゃないですけど、何か月に1回写真を変えていくとかですね、例えば、町の作品展に出て賞をもらったのとか、そういう話があったように思いますが、どういう展開になればある程度出来るんじゃないかと思ったんですけど、してもらえないんじゃないか、という思いがあったんですけど、みなさんどうですか。

(委員)なんか、今言われたように有効利用が難しいというのが本音だと思うんですね、あそこ。私も夜汽車で帰ったもんですから入ったら、蛍光灯がもう取ってあるわけだね、電気が点かないんです。夜や夕方に行っても真っ暗っていうような事でしたね。まあ、どうなんでしょう、誰か管理できる人でもあれば良いかもわからんですけど、ただ、なげておくっていうのは非常にもったいない話なので、何とかしたいなっていう気は持ってますけどね。

(事務局)ゆりりん館がオープンして、学生の方ですかね、今まで、松崎駅で待合とか迎えという事でおられたんですけど、だんだん寒くなってきたという事で、食堂の所で、まあ食べ物もありますし、暖房も効いてますし、そこで勉強したり待合される方が増えてきました。

(会長)Wi-Fiもありますしね。

(事務局)そうですね。

(委員)お金落としてもらわないと。

(会長)お金はもちろん。お金は落ちますか。

(事務局)パンやカップヌードルもありますし、たまにカラオケ歌ったりとかもされますし。意外とそちらの方の利用の方が増えてきましたね。それとやっぱりトイレもね、きれいなトイレを使いたいっていうのがあって、どうしても、こちらの方に流れる方が増えてきたんじゃないでしょうかね。

(会長)そういう意味では看板っていうのは重要なかもしれない、でもライトが付かないとかなれば、

それは是非産業振興課に声掛けしてもらって、やっぱり来てもらって駅の辺、この前も食事したい、どっかないかなあという、駅の方に来てもらう人もあると思うので、そういう事の対応を。でも外すっていう事はちょっとなんか。ちょっとその辺の案内にしても、照明も含めて点検の方をお願いしたい、みなさんから何かありませんか。

(委員)照明はどこのもですか。

(事務局)あれはJRさんですか？

(事務局)JRなんですけど管理は町に委託されている。

(委員)銀行なんかはよくロビー展をやるんですけど、うちの店は狭くて出来ないんですが、結構そういう方多くて、各地、スポット的なオープンスペースにして貸し出すみたいなことは出来ないんですかね。

(事務局)ギャラリーみたいなものですか？

(委員)2週間で押し花展とか。

(委員)狭すぎるね、ロビー展には・・・。

(事務局)ロビー展ね。

(委員)そういうのをやると多少人が集まったりしやすくなるかもしれませんけどね。

(委員)活用がなあ。

(会長)なにか主管課の方にも工夫の思いがないと、私なり、協議会とか、みらい創造室だけが悪戦苦闘しとって、主管課がそういう思いを、活用する思いをぜひお願いしたいと思います。折角あるのに。という風に協議会で話があったと、ロビー展の話もありますけど、活用する思いを直に聞かせてもらいたいなと思います。折角ですからね、ないなら閉めたらいい、逆に。

(委員)活用するとなると人がいないと、ロビー展をするにしても、

(会長)一つの方法ですけど、他に何かないか、なにか活用の一工夫。

(事務局)責任をもって活用する団体だったりだとか、組織が出てくれば多分そっちの方がいいと思うんですけど、今はそれがなくて、ああいう状況になってる。

(事務局)本当は前に委員さんがおっしゃったように、コインロッカー的なものがあれば、ウォーキングされる方が荷物を置きやすくなったりすると思うんですけど。

(会長)ちょっと、お願いします、もう一回チャレンジを。駅に関係の施設の活用、この前花をしましたけど、何かその後の管理というか何か・・・。

(委員)ちょこちょこ行ってみるけど、この間ホームの方も、花を植え替えされたみたいです。商工会っていうか、何かで、植え替えされたみたいです。放っておく訳にいかないって。でも、こうして折角周りをきれいにしても、電気が消えてるなんて気が付かなくて、それでなんだなと思ったのが、今気が付いたのが、戸がいつも開いている、通って気が付いたら閉めるんだけど、日が短くなってきたから、電気が消えてるっていう事は、あそこでなんかしようなんて出来ない。センサーの電気でもつければ、お金もかからない。蛍光灯なら点けたり消したりしないといけないけど、センサーのライトだったら勝手に点いたり消えたりするし、良いんだけど。表だけきれいにしても中が何にもならないような事なら、今電気がないと聞いてびっくりした。気が付かなかった。掃除はするんだけど。

(委員)蛍光灯が2本、付く予定になってたけど。

(委員)付いてるものだと思っていた、昼間しか通らないし。

(会長)電気が来てないかもしれない。

(委員)きてる、きてる。

(委員)器具はついてる、ただ、球がない。球が抜いてある。エコランプが2個ついてたと思う。

(委員)ついてた。点けばなしになってた時は切っていた。タクシーの運転手さんがよく気が付いて切

ってくれていた。点けたり、切ったりが面倒だったら、センサーが手っ取り早い。

(事務局)駅前の立地でもったいないですけど。

(委員)もったいない。

(事務局)防災の倉庫的なものは良くないですか？

(会長)それでもいいかもしれないけど、そういう観光目的以外でいいのかなという気がする。防災にしたら絶対施錠しますからね。

(事務局)もし、使い道がなかったら。

(会長)12人で会議が出来ますかね。いいかもしれませんが、そういう思いも確かにあります、ただ、観光目的で何か。

(事務局)今のまんまだったらね、よう管理出来てないのなら、そういう話も出してみるのも一つの案だと思います。

(会長)多分防災で使うと、なんで観光で使わんって絶対声が出ます。あんな良い場所、倉庫だったら使わせてもらったら、場所もいいし。

(委員)窓があるからいけない。

(会長)まあそうだけど。あそこももったいないですよ、やっぱり、何か。まあそういう選択肢もあります。防災関係の話になりますけど、先般台風24号の時初めて自主防災会の一声で、20人がゆるりん館の前の所に集結して、土嚢を設置したり、安否確認とか、そういう集まる場所がない。なんでかというと、松崎の公民館がない。中央公民館だったら一番端だし、あくまで中央の公民館であって、松崎の公民館がないわけです。逆に防災会の体制を作った時に駅前の所に行くのも一つの手かなと思いました。どれみの話がありますけど、どれみは土足で入れない、新しくて。松崎地区にもそういう場所があればなあ。探してもらったんです、多分言えば防災で使ってくださいなんて・・。という事で防災で良い場所があったら、

(委員)確かにあそこは良い場所です、言われてみれば。駅も近いし一番いいような気がします。

(事務局)人が常駐できないっていう事になれば、倉庫っていう使い方も。

(会長)拠点にして、そこに集まるというのはあります。10人だったら入れますよね、あそこ。

(委員)良いと思いますね。

(会長)実は物もだんだん増えてきまして、今はプレハブに置かせてもらってます。今度発電機買おうとか、水を180個買おうとか、リヤカー買おうとか、リヤカーを買っても置き場がない、そんな状況で・・。

(事務局)備蓄の水も置かないといけないとか、これからたくさん増えていきますよね。

(会長)増えていきます。発電機も買わないといけないし。

(事務局)それから言ったら、あそこ・・。

(委員)難しいな、あそこはけど。

(事務局)ちょっと旭寄りになっちゃいますからね。

(会長)そりゃそうなんです。やっぱ、あっち側が良いんですよ、場所は。Aコープに近いところが。100メートルでも違うんですよ。まあ、ちょっと一つの案として。

(事務局)防災倉庫ではなくて、祭りに使う、テントとか、なんかそういうイベント倉庫みたいな・・。

(会長)コミュニティ倉庫？

(事務局)コミュニティ倉庫だったらどうですか。

(会長)だったらありがたい。実は竹灯籠を作ったんですが置き場がなく、今消防小屋に置いてるんです。例えばのぼりとか、ただそれで・・。まあ使っていないし。産業振興に地区の活性化になるという事で、祭り用のグッズだったらいいかもしれない。竹灯籠が多くて200m作ったら、段ボール箱に10箱くらい以上。是非合銀さんの支援をいただきながら、増やして行って、文化振興倉庫に・・。

産業振興課は使う気がないっていう事ですかね？

(事務局)今のところはそうでしょうね。

(会長)地域イベント用として

(委員)竹灯籠を展示する、竹灯籠を全部並べて展示しておいたら。

(会長)あー、トータルでね。

(委員)穴の開いとる竹を？初めて聞いた。

(委員)時々点灯して。

(委員)番してないといけない。

(委員)そうですね、番してないといけませんね。

(会長)そりゃあ、1年に1回くらいで、クリスマスとか。

(委員)クリスマス、いいですね。クリスマスとお盆ぐらいに。

(会長)分かりました。

(事務局)あと、今ちょっと防災会の話が出たので、自主避難所でゆるりん館とかどれみが使えないだろうかっていう話がありましたが、総務課に確認をしたら、役場に相談してもらう前に、まちづくり会社と松崎の地域で協定的な物の話をしてもらって、OK という事であれば、自主避難所にここを使いますと総務課に言ってもらったらそれでいいですよという事でした。

(会長)今後多分そういう風をお願いしたい、何かあった時のホームみたいな

(事務局)まちづくり会社ですからね、管理が。地区と協定なりなんなり。

(会長)それは是非今後協定をして。

(事務局)希望はありますか。

(会長)水害の場合避難所は公民館になるんですけど、三区とか五区なんかはやっぱ池側ですから、選択肢としてあるかなと、それから電源が無くなった時に充電ヶ所、公民館に行ったら発電機がありますけど、例えばこんなところが防災面としてあるかなと。おいおいになりますけど。

(事務局)調理もガスにしますので、停電でも使えますしね。

(委員)普通の公民館に行ってもテレビひとつない訳ですよ。行きたがらんですよ。何の情報も入ってこないから。

(会長)旭もないですしね。

(委員)距離があってあそこまでいかれない。年寄りなあそこまでいけれんって言う。

(委員)ここでそういう協定が結べれるのなら、都合がいい。

(会長)良いと思いますね、炊き出しもすぐ出来ますし。

(委員)駄菓子もあるし。

(会長)サービスで。

(事務局)食品もありますから。

(会長)分かりました。いずれにしても少し

(事務局)検討しましょうか。

(会長)ええ。観光面で灯籠っていう選択肢はありますね、今後支援してもらえたら。1000個でも・・・。

(事務局)竹灯籠のともさんに相談してみられたら。なにかいいアイデアがでるかもしれない。

(会長)今年200個作ってまして、それを増やしながら、あそこの観光案内所に点灯しながら、モニユメント的になって、あるかなあと思って、まちづくり活性化で。それを祭りの時に持っていくと、あそこを半分展示して、半分倉庫にするとか、そういうのもありかなと。たまには点灯するとか。今アイデア出ましたけど、面白いかと。防災面はちょっと相談させてもらいます。要は人が集まる場所がないという事は、私たちが対策本部を松崎地区に作った場合、拠点として人が集まる場所、この前は20人でしたけど、それがよどやという今塾やってますから、共用の場所で、防災本部み

たいな形の場所がない、という所です。旭も耐震性の問題がありますし、離れてますし、五区も水に近いとなるとゆくりん館周辺になにか建物が欲しいというのは私たちの思いです。あそこだったら何かした時に集まってきてもらう。

(事務局)ひさしもありますし、災害対応の自販機が2台ありますし、一番いいんじゃないですか。

(会長)金融機関の店舗の横に防災倉庫があるんですよ、あそこに土嚢なんかを置いておけば。ソフト面をこちらにして、ハード面をあそこに。駅横は、松崎が今回少し盛り上がった竹灯籠を活用していくような取り組みがちょっと面白いと思いますし、それについては事業を出来れば、金融機関さんの文化財団を使いながら、やってみたらどうだという、また支店長相談させてもらいますので、よろしくお願いします。非常にまあ、竹灯籠についての反応をもしよろしければ、何かありましたら、竹灯籠プロジェクトに参加してもらった感想をお願いします。

(委員)これとってないです。

(会長)なし。委員さん参加してもらいましたけど。

(委員)穴の大きいのは意味がない。

(会長)なるほど。地元として参加していただきましたがどうでした。

(事務局)是非、夏休みにしていただけたらなあって。

(会長)なるほどね、子ども会でね、そういうところに金融機関の支援がくる、多分。

(委員)今の話を聞いていると、合わないんですよ、持ってきますけど。企画を作る前に読んでもらった方が、イメージがわくと思います。

(会長)参加してどうでした？

(委員)竹灯籠に参加させてもらって大変だったことは大変だったけど、穴の大きさがやっぱり、竹の筒の大きいのと小さいのがあったでしょ、高さも一定にした方が灯りの具合がいい。

(会長)高かったですね。

(委員)中にはすごく大きいのもあったし、穴の大きさと竹の長さとか太さを加減してあればちょうどいいかなと思って見た。

(会長)新聞に出た写真が、神社に置いたやつだけど、この報道の分が一番明るくて良かったですね。

(委員)蠟燭がこますぎた。

(委員)5区はね、蠟燭を・・・。

(委員)大きくしたけど。

(委員)2日間、きれいに点いてました、写真をとりに来た人がいた。

(委員)結構蠟燭が大きいと明るかった。

(会長)時間的には？5時間くらいもつ？

(委員)4時間くらい。上の方も灯りを出そうと思うと、大きい蠟燭の方が良かった。

(委員)どうやって立てた？

(委員)小さい蠟燭に立てた。

(会長)今回竹灯籠を逆にしたんですよ。雨が降ってもいいように。そしたら、高いという暗かったものですから、逆に短くしてカットしたら一番明るいので、その形にしたら。作りやすいし。

澤さん、竹灯籠のプロジェクトを松崎地域の活性化の起爆剤にしていきたいという思いを持って今話してますけど、もし感想がありましたら。

(委員)とても良い事だとは思いますが、内々すぎて、もう少しこう外に向けて、僕岩美町なんですけど、岩美町は海にTシャツを絵を描いてっていうイベントで、今2年目で流行ってまして、これにもう少し外部の人を入れ込むような。

(会長)外部の人でも参加できるような感じ？

(委員)そういうイメージをしてあげるとすごくいいと思います。

(会長)それは、例えば灯籠を作る時に外部の人に参加してもらうとかそういう感じですか？

(委員)仕掛けはこれからちょっと。

(会長)なるほど。

(委員)自分で作ったものが1年に1回飾られるとか、いろんなやり方はあると思うんですけど。

(会長)例えば、花火大会の時にコーナーを作っておいて、作ってもらう、大して変わらないですね。

(委員)ミニなんとかを作る、外からの人を・・・。

(会長)岩美は？さっき言われた岩美の人は、何を？

(委員)白いTシャツに絵を描いて。あれが結構好評で。

(会長)吊っというて？なんかありましたね。

(委員)その日に描いたものを飾る。

(会長)だから、観光客が参加できるような仕組みですね。

(委員)そうですね。

(委員)まず、さっき、言われたように、夏休みの子ども達にやってもいいし。

(会長)分かりました。事務局で参加されて何か思いがありましたら。

(事務局)皆さんの意見を聞いてなるほどなど。蠟燭が小っちゃかったのは、申し訳ない。

(会長)いや、竹が大きかったから。

(事務局)地区でこうやってまとまって何かするって、実際に行動に移されて、こうやって新聞なりなんなりに載って、大きな成果だと思っています。これが地区で独り立ちして盛り上がっていけばいいのかなと。

(会長)住民のかかわりがいいなと思いました、管理までしてもらって。

(事務局)竹灯籠ですけど、水郷祭の灯籠があるんですけど、ああいうのを夏休みとか、普段から地元の人に絵を描いてもらったりとかしといて、それを地元の人で流すみたいな、そういう仕組みが出来れば、もうちょっと水郷祭とかも参加型のイベントになるんじゃないのかなと思いますね。

(委員)あれは幼稚園、地域のこども園さん、それから近隣のデイサービスに持って行ってあげますけど。

(事務局)そういうのもいいけど、例えばこじつけて、例えばアベックで流すと恋が実るとか、なんかそういうこじつけで。

(委員)考えたんですよ。でも、どこで流してもらうかが今度は、やたらな場所で流してもらうと危ないんで。流す場所を決めといて、それこそ船着き場の所をもっといい具合にしてあそこで流すとかすればいいんだけど、なかなか・・・。

(会長)恋のゆうゆうで。恋の湯。

(事務局)あとは竹灯籠なんかを湖畔公園や湖畔沿いに水郷祭の日に並べて付けるとか。

(会長)それはありますね。

(事務局)それだけでもなんかこう水郷祭の雰囲気も変わってくると思うんですよ。

(委員)管理が大変。いろいろ考えたんですよ。水郷祭の時に間に合うように、旅館に持って行って、お客さんに描いてもらう、でもただっていう訳にはいかないしって感じで、話はしたけど、忙しい時だからようしませんって。

(会長)委員さん、何か、今の竹灯籠について。

(委員)良いと思います。竹灯籠については、発想がいいんじゃないでしょうか。ちょっと他の事でいいですか？この松崎駅前活性化協議会というのは、平成28年度に、湯梨浜町生涯活躍のまちのモデルプランのうち、地域地区駅前の活性化について検討する、というような協議会だと書いてありますが、そのほかの本当の目的というのは役場の方、何かあるんですか。あと浮かんだのは北海道の夕張市が浮かんで、スーパーが無くなる、医療機関が出ていく、まちのサービスが低下して、人口が減る、人口が減ったら税金が高くなって負のスパイラルになる、まちをそういう風にもってい

かないためには、10年以上前からだと思うんです、4、5年前になってから、計画しても間に合わない、まちが潰れる前の4、5年前になってから、ありゃ、なんて言っても間に合わないですよ。10年前くらいから、みんなで真剣に話し合ってやらんと夕張みたいになってしまうと。まあ、夕張は市で規模が違いますが、湯梨浜町も、ここの松崎地区っていうのは人口が減り寂れる一方で、そのために話し合うっていうのかもしれないですけど、それに比べて羽合の方は、ちょっと表面的かもしれないけど、店ができたり、こっちと対照的ですよ、なんでかなと考えるんですけどね、ちょっと全体的な感じというか危機感を持ってやらんといけんのではないかなと思って。まちが潰れるというか、NHKで何年も前ですけど地方公共団体が日本に何百とあるんですけど、潰れるそうですね、潰れる可能性があるところがたくさんあるそうでした、結局、町でなくなる所とか、市町村で無くなる、結局人口が減って、負のスパイラルに入っちゃうわけです、人口が減り、税金が集まらない、医療機関が無くなる、スーパーが無くなる、民間企業は敏感ですからサーッと逃げちゃう、スーパーが無くなると買い物が出来なくなるし、そんなにまあ悪い事ばかり考えててもいけんですけど、今から10年後、15年後ですね、考えたら、この辺のまちも潰れる方に入るのかなと思って、そうなったらいけないんですが、潰れんようにするために町の方がそういう風に持っていてるのかなと思って、僕は思うんですけどどうですか。

(事務局)生涯活躍のまちっていうのは、国の政策も一つにはあったと思うんですけど、人口問題ですね、やっぱり東京に一極集中で、人が集まって地方はどんどん人口が減っていくというのはここだけの問題じゃなく、全国の問題だという事の中でこういうものが出てきて。町としてはその中の一つとして松崎地区も、東郷・泊ですね、羽合は人口が増えてますから、人口が減っているそういった中でAコープが潰れて、ひとつの要望があったのが、買物だとかそういった部分の買い物難民ではないんでしょうけど、そういった要望が出てきている。そういった中でひとつの拠点といいますか、今はもう出来てますが、出来たそのAコープの跡地の問題だとか、一つの拠点としながら松崎地区のにぎわい拠点ですね、そういった分が出来ることによって、やはり町といいますか、極力他所からも入ってくる。実際、他所から松崎に住みついている人もある訳で、そういった部分のきっかけのひとつとして拠点、で、この会でも検討していただいている。どうやってこの場所を盛り上げようかという旧Aコープの跡地の問題を話し合っていて、オープンして、買い物機能とか高齢者が増えているという中でやはり、買い物機能を充実させていけば、離れるんじゃないくて、来ていただける人にも対応できるんじゃないかという部分であって、この協議会にしても、生涯活躍のまちで言われたのがやっぱり、言われるように人口対策、っていうことの拠点を設けておけば、多少、減るにしても緩やかな減り方にもっていけないかという狙いがあったというところですね。なので言われる通りです。

(委員)便利が悪くなるっていうのは、さっき言ったスーパーが無くなる、交通の便も悪くなるでしょうし、急行が停まらなくなったり、普通列車しか停まらなくなったり。

(会長)よろしいですか。

(委員)最終的にはだから人口ですかね？

(事務局)最終的には、まあ・・・。

(委員)魅力があるなしではなく、人口ですよ。

(事務局)そうですね。

(会長)今の話につきましては(3)の今後の協議会のあり方についてちょっと議論していきたいと思えます。よろしくお願いします。竹灯籠で何かありますか。

(委員)手っ取り早い成果というか、賑わいという感じで、非常に良い事だと思います。ああいうものから取組んでいかんと、いろいろと高いところはあるんだけど、すぐ手が届く事でもないし、今のお話で、手っ取り早く人の目にも触れるという事で良いんじゃないかなと思いますけどね。

(会長)神社の方はどうだったです？

(委員)神社、良かったですよ。夜通る人はね、なんかこう気持ちが和らぐ、というような話はいろいろ聞きました。

(会長)ありがとうございます。そうしますと(1)、(2)のところですね、(2)の関係の駅横施設の活用については脱線もありましたが、(1)はどれみ案内の活用、追加あと写真等も含めて産業振興に検討していただく事と、加えて竹灯籠の活用も出来ないか、3点で今後も検討していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(3) 協議会の今後のあり方について

(会長)協議会の今後のあり方につきまして、みなさんと話し合っていきたいと思います。という事で、先ほど話がありましたが、協議会としましては平成28年度10月に、ちょうど2年位前に発足しまして、今後どうしようかという事で話を進めていきたいと思います。事務局の方ちょっと資料がありますけど、最初の発足等も含めて改めてご紹介をいただけますか。

(事務局)はい。これまでの取り組みについてという事で7ページ目に資料をつけております。先程から話があるように平成28年に策定した湯梨浜町生涯活躍のまちのプランのうち、駅前の活性化という事で、検討を進めるという事で、活性化協議会が設置されました。委員さんについては多少の交代がありながら、16名という事で協議を進めていただいております。協議内容につきましては平成28年度に6回、平成29年度は、グループ討議を別途開催した上に10回開催、平成30年度については、今日含めて4回の実施という事になっております。協議内容については、旧Aコープの活用方策を中心に、検討を進めてまいりました。それ以外に地域の現状や資源を洗い出し、昨年度実施したグループ討議の中では、コミュニティ、駅周辺の活用について、イベント情報発信、足湯という事で4つ分科会を定めて協議を進めてきました。平成30年度で、その分科会で話し合った結果が、実施に向かったという格好です。下にそれぞれ実施結果といいますか書いておりますが、コミュニティ作りで協議した結果、どれみのオープンの記念の軽トラ市で、防災体験等実施しました。それから駅周辺の活用という事で、花いっぱい運動の開催をしました。イベント情報発信という事で、軽トラ市に総合相談センターのオープンに合わせて開催していただきました。足湯についても平成30年度末までに設置の見込みという事になっています。先程から話があるように生涯活躍のまちというのは、最終的な目標としましては、人口減少を緩やかにしていくというのが町の大きな目的のひとつではあるんですけど、この3年間で駅前の活性化については、ある程度の成果を出していただいたのではないかなという風に思っています。旧Aコープがゆりん館に変わるにあっても、どんな中身があったらいいのかというようなところを何度も協議をしていただいて、オープンに到ったという状況があります。今までいろんなことを協議してそれが結果になってきたんですけど、これから先どうするのかという所を、またみなさんで協議していただけたらと思います。以上です。

(会長)はい、ありがとうございます。1点だけ今、協議内容としまして、実行した分が、どれみのオープンの軽トラ市、花いっぱい、それから観光案内所はこれから検討、そしてイベントの軽トラ市、足湯がありました。それ以外に先ほど言われましたけど、活性化の手段として、今回の竹灯籠プロジェクトを新規で協議して、速攻的に9月決定で、10月実施という事ですけど、非常に地域の人も参加できる、効果的にイベントになる、という事でこれを加えておきたいと思います。よろしくお願いします。そういう中であって、今後の議題はありましたように、2年前の10月20日に発足しましたが、任期は5年です、という事で今後協議会をどうしたらいいかという事で、皆さん方考えてきていただけたでしょうか。忌憚ないご意見、ご提案をいただけたらと思っています。皮切りに、今後の協議会を。

(委員)さっきの話と同じかもしれませんが、現在の市町村は他の市町村と競争しておられるんですか。

(事務局)競争？

(委員)他の市町村と競争。何を競争するかというと、サービスの競争をしたり、例えば他の市町村よりも保育園の料金が安いとか、そしたら人口が集まるじゃないですか。他の市町村とこういう面については、うちの市町村の方がサービスがいいってような事が、サービスの競争とかしておられるんですか。

(事務局)競争っていう言葉ではありませんけど、そういう制度の、他所よりはいい制度を作りたいと、そういう所ではやってますね。

(委員)口にはしませんが、近隣市町よりうちの方がいいとか。そうした方が人が集まるでしょうかね。

(事務局)そうですね、多少とも売りがね、売りが出来ますんで、比較した時に、湯梨浜はこれだけはしてますよとかね。

(委員)昔は、日本人は土地にしがみついて離れなかったですが、今はぼんぼん変わっちゃいますからね、この間までここに住んでたと思ったら、2年3年後には変わっちゃいますから、その辺が昔と違う所で、魅力あるまちにすれば、魅力って言ってもいろいろあるけど、まあ魅力ある町にすれば、集まってくる町と離れていく町があるから。

(委員)逆に役場としてはどうあってほしい訳ですか？

(事務局)役場としてはこれはひとつのきっかけであって、もしされるんだったら、地域で自立されるような組織なり動きなりなんなりがあったらいいなと思うんですけど。ただ、5年ですよ、こういう会を作って、ある程度やってこられて、その判断は皆さんでやってもらえばいいと思うんですが、ここでひとつテーマを絞られたら、それに向かって続けられたらいいのか、やっぱりなんでもかんでもという、皆さんがえらくなってしまうかなと思いますし、ある程度出来る範囲の物を決められたらそれに基づいて、時期を見計らってやっていくのもひとつの手かなと。大きな最初のテーマであった、こういう施設なりが出来て、ある程度の道筋は出来ているので、そう言った面でまた、この辺を盛り上げていってもらったならなと思いますけど、その辺は一旦休憩されて、竹灯籠の時期になったら、また集まってとかそういう部分でもいいかもわからんです。それは皆さんで。

(委員)私は個人的な意見ですけど、一段落ついたと、雰囲気的には。まあ、まちづくり会社も自立されるという事で、当初の目的は達成された、という風に思いますので、協議会を消滅させるという意味ではなくて、協議会は協議会であっていいと思いますけど、その辺を協議会の自主存続っていうか、そういう面で考えてもらったら、我々も楽になりますし、方向が違ってきたらまた修正していただくという事で、したらいいいと思います、まあ一回休憩っていうか、考え直す時期じゃないかなと思います。

(委員)移住定住っていう形で、湯梨浜町は昨年度より3.4倍くらい増えたただってテレビで言ってたですけどね、入ってこられる方はいいですけど、大学じゃなんじやって、若い人が、最終的には人口は減少傾向と思うんですけどね。

(事務局)そうですね。

(委員)その3.4倍っていうのは、昨年い比べて伸びたっていうのは、結局何人くらい増えたんですか。

(事務局)新聞報道でいってる湯梨浜町がすごく増えたって事なんですけど、実際それはここだけの話なんですけど、窓口のアンケートなんです。県外から入ってこられた。

(委員)ちょっと待って、Uターンみたいな出戻りみたいな感じで、向こうに出ておられて、帰ってきた人が多いのかと思って・・・。

(事務局)そういう方も含めて、窓口でアンケートなんですけど、ただ、今までアンケートを出されなかった方がおられて、結構、実際の数より少ない数字があがってきたのが、この度4月からは、アンケートを見直そうと、やっぱり難しいアンケートは書いてもらえないので、もっと簡単にアンケート

を書いていただいて、ちゃんと出してもらって、ある程度正確な数字を掴もうと取組みまして、したら昨年よりもどんと増えた数字があがったと、いう所なんですよ。

(委員)テレビなんか見てるとすっごく増えた感じで、減少に徐々に、まあ出ていく若い人もいるのに歯止めになったかなと思ったりはしたですけど。

(事務局)ただ、現実的に湯梨浜町っていうのは、住民台帳上いったら、やはり入ってこられる数字っていうのは、出る方と入る方の差でいったら、県内でも上の方なんです。多い…。

(委員)それは、旧羽合町の辺りに多いんでしょ？

(事務局)人口を地区ごとに見ると、やはり羽合は増えてるんですね、で、泊・東郷は減ってきているという、このバランスの中で、羽合の増加分が響いてると。

(委員)それともうひとつは、県内の、倉吉市内とか北栄町やああいう所から来た人も入れるんですか？
県外の人ばかりですか。

(事務局)町外ですよ。

(事務局)今回新聞紙上で言ったのは、県外の方の数字なんですけど、実際町外もいってくると実際もっと多くなります。

(会長)一旦あくまでも旧Aコープを焦点にあわせて活動してきたので、一旦休止にしたらどうかという意見がありましたが、皆さん方は、それ以外のご意見とかありませんでしょうか。

(事務局)ゆりりん館を運営する立場から言いますと、いろんな運営の中身ね、こういった物があつたらいいよとかアンケートなりなんなりいただいて、やってるんですけど、我々もその中身をもっと改善しながら、喜んでいただけるものを提供していかないといけないという思いはありますけど、じゃあ、そこは実際に作ったんだけど、ほんとに地元の人に利用してもらえんのだろうかという不安があるんです。要望があつて作ったんですけど、Aコープみたいに何年かしたら利用者が減ってしまつて、同じ道をたどるのではないかという心配も無きにしも非ずで、やはりこれを存続させていくというのは、住民の方の拠り所という事を継続させていかないといけないと思いますので、そこには我々だけではなしに、地元の方と一緒にしながらイベントなり、寄っていただけるような仕組みづくりを継続してやっていかないといけないんじゃないかなという思いもあります。大きな事は出来ないし、負担になりますけど、絶えず地域と繋がっていけるような仕組みはこれからも持っていきたいなと思います。ですから折角動き出したものを、勢いは緩めてもいいかもしれませんが、止めてしまうのは非常にまた動き出すのに、大きな労力がかかりますので、危険というか、寂しいなっていう思いはしますけど。

(会長)私は委員一緒に協議会やってきましたが、結構ハードです。新しい、特にイベント関係を中心にやってますと。そういう意味から言うと、一旦休止が一番いい選択か、またはメンバー変えて委託かなんか、そういう形だったら、今の事務局が言われた分は少し私は厳しいなと。ただ、協議会で地域が一体となってなんかやっていこうって言われたときに、みなさんに相談するとか、いう形ならいいですけど、ある程度今度は会社をベースにした、やり方になるとちょっと、負担が大きいなっていう感じが。地域ニーズ、住民に参加のような取り組みについての、皆さんこんなこと考えたんですけどどうでしょうか、だったらいいけど、ある程度絞ったものになるとちょっとプレッシャーがあるような気がします。

(委員)一緒だね、考え方は。ただ、まちづくり会社はやっと歩き出したところだから、我々も側面的には応援してやらんといかん、という意識は持ってるんですけどね。今言ったような新しいメンバーでやっていくのか、今のメンバーでやるのか、その辺が非常に難しいところだと思ってますけどね。

(会長)今のメンバーを存続してという考え方？

(事務局)というイメージですね。

(会長)結構ハード、二十何回…。

(委員)ただひとつ問題なのは区長さんが毎年変わるので、今まではどれみとかゆるりん館を目標にやってきましたんですけど、これが一段落っていう事になれば、区長さんも来年変わってきますし、我々も区長さんと一緒にやるっていうのが大前提で来てるんでね、その辺がちょっと難しいかなと思ったりはしてるんですけどね。まあ皆さんが区長やるでっていう人ばかりだから、良いですけど、区長しとるから頑張ったっていう人も結構いますからね。

(会長)ハッキリ言いまして松崎だけは、特に地域一帯の連動で評価してもらったんですけど、げんき祭りとか軽トラ市とかしてますけど、区長会とか協議会のメンバーが中心ですから。結構出てるんですよ、毎回いろんなもんに出ていただいて。ほんとにボランティア精神、そういう人ばかりですけど、変わってきたら、また、お願いしないといけない。ほんとに大変。げんき祭りなんか多分これだけ一生懸命やったんですけど、よそは多分出来ないと思います、そこまでやってきた、それは協議会があったからやってきたという事で、ただこのメンバーは継続してやっていくなら、定例的にやるのは難しいけど、いう実感が、今の私の気持ちですし、多分皆さんもかなりやってきたなあって思っておられると思います。

(委員)仕事しながらだからね、たまたま休みが合ってこうやって出させてもらってますけど、確かにきつい、本音は。ちょっとは休憩させてもらいたい。だけど、それで逃げるんじゃないくて、側面的にはアドバイスしたり、そちらから声かけてもらったら、是非参加させていただきたいというのが、本音です。

(会長)みなさん、そういう事でいいですか。表現的にちょっと思ったのは、定例開催を随時、問題課題があって、私たちの中で課題が見えたら、相談しながらやっていくような軽いスタンスならいいかなという気がしますけど。いかがなものでしょう？

(委員)いいんじゃないですか。

(事務局)やっぱり、無理して続けられるものでもないし。

(会長)軽トラ市と竹灯籠と花いっぱいだけでも結構みなさん、げんき祭りがありましたが、協議会があったからできたかもしれないです、もしかしたら。いろんな事をこのメンバーだから出来たと思います。という方向でよろしいでしょうか。

(委員)良いと思います。

(会長)という事ですから、随時開催、よろしくお願いします。

(委員)逆にゆるりん館やどれみの活性化について、他町村から見た時、どんな感じなんですか、正直なところ。

(委員)同じ町内でも羽合地区とか泊地区、同じ東郷地区とかの本音が聞きたいですわ。

(事務局)よその町の事は分かりませんが、県内でも、こういった生涯活躍のまちで拠点をつくったりとかっていうのはほとんどない。湯梨浜と2、3でしょうね、こうやって手をあげて、協議会も出来て、こういった施設も出来てっていうのはすごい事だなと思っています。そこから言ったら、やはりよそも同じような買い物難民のような同じような問題を抱えている所が、こうやって実現できたっていう事はひとつの大きな成果だと思ってますし、今度泊でもそういった小さな拠点整備が今検討されてるんですけど、ここもひとつの参考になるのかなあという所で、ひとつの先進事例になってほしいなと今思っているところです。

(会長)泊はどんな状況ですか？今後の展開としては。

(事務局)泊も同じように、あそこそ大変な買い物難民で、住民の要望、アンケートでね、7割以上がそういう物が欲しいという結果に基づいて、協議会で検討してるんですけど、ただ実際どういった買い物機能を持たせるのか、運営方法はどうか、という所を何回か開いてるんですけど、なかなかこれっていう物は出てきてない。

(会長)場所も？

(事務局)場所も、大体港辺りでこの辺ってイメージはあるんですけど、あくまでも民有地だったり、国の土地だったりするんで、そこをどうしていくかがこれからの大きな課題です。

(委員)聞くと構想みたいですけど泊の公民館、泊分館っていうのですか、それとか泊支所とか、あの辺をこうまとめる様な話も。

(事務局)当初はね、そういった泊の公共施設をひとつに小さな拠点でひとつにまとめようと話があったんですけど、いろいろな意見の中で、今の泊分館だったり、高台は今度は高齢者がいけなという話になって、ちょっと切り離して考えようというのが出まして、港付近、今の泊支所から港付近をひとつの拠点にしようと、公民館は公民館として、もう古くなっているんで、協議会としては解体して新しいのを建て替えたらどうですかっていうところで留めて、あとは教育委員会の方でやってください、という風な事をして、今は、協議会としては泊支所の辺りをどうするのか、買い物機能をどこに持っていくのかっていう所で今話をしています。ただ、なかなか難しいですね。

(事務局)まあ、いろいろと感じる中で、非常に今回いいタイミングで、スタート出来たんじゃないかなというのは、やはりこの地方創生の補助金って期限があるじゃないですか。その中でいち早く湯梨浜の松崎が手を上げて、取組まれたんで、いろんな意味でこの湯梨浜の中で一番成功のモデルとして、実現しやすかったタイミングと地区だったんじゃないかなとは思いますが。だから、みなさんの努力でこういう結果には持ってくれたんですけど、現実的にも県内でもこの湯梨浜町内でも、こういう同じことをこれから立ち上げていくっていう事はかなり難しい、と思います。この松崎でも実際オープンしても継続できるかどうかまだ心配がありますから、これを泊でやっていくっていう事になると、それなりの組織なり、住民の応援っていうのが、さらにないと継続が難しくなってくるので、非常に松崎は今回いろんな意味で良かったんじゃないかと思いますね。

(会長)そうしますと今の関係につきましては、一応一区切りを3月という事で、区切りをしまして、その時には何らかのお知らせを松崎地区に出さないといけないと思います。そうしないと5年間の中間報告と今後はこういう風にしていきますよという事をみなさんに示さないといけないので。そういうところをどうするかってことを文書的に整理して、次の会議かなにかで、と駅の活用ですか、その辺が中心になると思いますけど、という事でしていきたいと思います。いずれにしても今後の在り方について何かありますか。一旦休止で、随時開催方式。

(委員)良いです。なんか宙ぶらりんみたいな感じはしますけど。

(会長)区切りは…。

(委員)ひとつの区切りは必要ですね。

(会長)ええ、旧Aコープもゆるりん館になりました。いいじゃないですか。そういう風に文章的にもAコープ活用をっていうのになってました。

(委員)アンケートとられたらどうですか？

見ていると、お客さんがなんだかちょっと寂しい。出来たはいいけど、お客さんが、最初は物珍しさに来られたけど、通ってみるけどお客さんがいない。言ったら悪いけど。来られた人にどういう物かという事を、アンケート箱を作って入れてもらったら。どういう物がこれから欲しいとか、自分たちが思ってたものが出来てないって言われるんですよ。お客さんは。

(事務局)皆さんにそういう要望はもちろん、聞かないといけないと思ってます。

(委員)長いことかけてやるよりも、出来ましたが何か要望はありますかと、アンケート書いてもらったら。言ったら悪いけど、苦情を聞く方が多いです。

できたのはいいけど、私たちが要望したのが出来てないねって言われる。あっ、そうですか、声出して言ってあげてください、レジの方にでもって言うんですけどね。言って通じるかって、言われるけど。言わなかったら通じないって言うけど。アンケート箱でも置いて、こうしたらどうですかって皆さんが言われる。何処でも買える、だから結局あそこで務まらんって言われる。この間バ

スで一緒になった人があって、出来たはいいけど何する？って言われた。欲しい物がない、あっち行きこっち行きはかなわんって言われた、年寄りが。でも折角要望があってこしらえたのに行ってみたらって、私に言われてもなんだけど、レジの方がおられるから、役員さんもおられるからって。

(事務局)商品の品ぞろえって事になってくると、スーパーやコンビニと違うもんなんだ。

(委員)結局、何がいのって言ったら、生鮮食品だって。魚、お肉、それがメインだって。欲しいって。

野菜は買える、あるのはわかる、だけど、一番欲しいお魚とかお肉とかそういう物が欲しいって。それがなんでないんだろう、出来たはいいけど、要望出したんだけど、って言われるから、ああ、そうですかって言うしかない。

(事務局)お魚やお肉は保健所の関係で加工っていう事はかなりハードルが高いので。

(委員)なんでって言われる。

(事務局)そこに鮮魚・精肉コーナーが出来たとしても、それが事業が継続できるほど、買ってもらえるかっていう所もあるんです。だから希望されるものと実際に買っていただくものっていうギャップがあるんで、我々は今回出来る限りの要望の商品っていうのは応えていくつもりなんですけど、一番は拠り所、地域の方が集まっていただけるような拠り所っていう位置づけにしていかないと、これをスーパーと一緒に考えると全く競争にならないので、そこはちょっと誤解ないように。

(委員)ギャップがあるから、今までのスーパーと同じっていう考えがあるから、そういうのが出てくるんじゃない。

(事務局)他のスーパーや食堂にない地元のコミュニティっていう部分を、やはり全面に出していかないと。

(委員)全面に出して、こうですって言わないと、やっぱり皆さんの足が遠のいたら、何にもならないからね。難しいところだからやっぱり、意見を聞くしかないねって話はするんだけど。

(事務局)スーパーっていうと、みなさんがすごく物足りなさもあるし、勘違いされるんで、スーパーじゃないですよと、ここは交流拠点ですよと、そういう位置づけに持って行って。

(委員)持っていかないと、それを中心に出不ないと。

(事務局)それに必要な改善をしていった方がいいと思います。

(委員)難しい面があるね。考えが、ほんとに難民で困っている方とどこでも行けるっていう人といろいろあるから。

(委員)どっかの店が、肉や野菜のお店を出店したいって言われたら？

(事務局)以前、魚の移動販売っていう格好でありましたから、そういう格好で出張販売してもらえるような仕組みは作っていかないといけないって思うんです。それが1週間ずっといつでもあるっていうのは、なかなか難しいと思うんですけど。毎週何曜日だったら魚屋さんが来ますよ、お肉屋さんが来ますよ、っていう。それでも地元の方は大分違うと思います。

(委員)来年度になったら、軽トラ市とか元気祭りが、竹灯籠や花のプランターにしても、そういう時には声がかかるですか。

(会長)そういう事です、随時です。

(委員)また集まって相談して、それ以外は一応休止っていう形？

(会長)だから随時。貴重な戦力ですから。休止じゃなくて随時です。

(委員)それですーっとなくなっちゃわないかと。一時休憩だな。

(会長)休憩です。

(委員)分かりました。

(会長)よろしいですか。よろしくお願いします。その他に皆さんの方に何かありませんでしょうか。今後の展開ですけど、いずれにしても3月は区切りの一杯の会を、やりたいなあと思って。開催飲み会を、なので、今回は忘年会と新年会を取りやめたいと思います。3月に一旦区切りの会を開催す

る。で、その前に一回整理しておきたいので、それを1月の終わりか2月の初めにしたいなと思ってますけど、いかがなものでしょうか。みなさんが月曜日に出やすいようなので、1月の最後の月曜日、28日いかがでしょうか。1月28日に会をして、課題の分を整理して、3月の18日くらいに。

(委員)1月2月に集まった時に決めたらどうですか。

(会長)じゃあ、1月28日にさっきの課題ですね、駅横の活用とかを中心に論議して、あと、今回のプロジェクトは一応書類を作って、その時に中間情報はお知らせできると思います。よろしくお願いします。じゃあ、次回1月28日月曜日19:00～どれみという事で。事務局、よろしかったでしょうか。

(事務局)はい。

(会長)では、時間が遅くなりましたけど、最後に副会長のあいさつをいただいて閉会したいと思います。

4. 閉会

(委員)どうも大変長時間、また28年から3年少々ですか、協議していただきまして、まあ、やっと歩き出したというところが、今回も実になるんじゃないかなと思っています。先程から、休止だ、中止だ、何とかと言ってますが、一応継続しておりますので、それは頭に置いておいていただきたいなと思います。まあ、こうした長期にわたった協議とかはあまりないかなと思いますけど、軽トラ市、元気祭りはこれからも継続していきたいという気持ちを持っておりますので、まあ、3年間に懲りずに、またよろしくお願いしたいなという風に思っております。とりあえず、こうやって一段落ついたという事は皆さんの協力のおかげだという風に思っておりますので、大変ありがとうございました。

次回開催：平成31年1月28日(月)19:00～

場所：どれみ

以上